

# 九州自然歩道を歩こう



九州自然歩道完成記念式典（阿蘇町かぶと岩展望所）

## それぞれの味わい・思い

「太陽と緑の国」九州の恵まれた美しい自然、豊かな歴史、文化財などを結んで九州を一周しようとする九州自然歩道

は、昭和五十一年から五ヶ年計画で整備を進めてきましたが、本年三月で事業が完了し全路線が開通しました。

この九州自然歩道は、環境庁の長距離自然歩道構想にもつき、東海自然歩道に次いで全国で二番目に国庫補助事業として実施されたもので、起点・終点を設けない回遊式の歩道として総延長二千三百三十七キロメートル、総事業費二十二億三千万円で完成したものです。

コースには、六つの国立、国定公園があり、県立公園を入れると実に三十六の自然公園を通ることになり、ゆっくり回れば三ヶ月はかかるという壮大な規模のものであります。

熊本県内の主要コースは、天草下島鬼池から、本渡―天草上島連山―宇土半島―金峰山―小岱山―山鹿―菊池―阿蘇―五家荘―球磨盆地―人吉市から久七峠まで、総延長五百二十三キロメートル。総事業費四億八千七百万円で整備されたものです。

コースは、山岳・高原・海岸コースの他にローカル色豊かな歴史的文化財なども結んでおり、四季を通じて探勝でき、景勝地、休養地、都市近郊などバラエティに富んだコースの設定がなされています。更に利用しやすいように、日帰りコース、一泊二日コース。また、健脚向きコース、家族向きコースなど十二のモデルコースを設定しています。

いずれのコースもそれぞれ特色をもち、探勝型、史蹟探訪型など興味ある面白いコースです。職場のグループや友達同志、また、子供会など、自然に親しみやすいかっこうの場所となりま

す。

次に十二のモデルコースを二回にわたって主な特徴、見どころなどを紹介することに致します。

## 文化遺跡とロマン 心うつ殉教の歴史

### 天草キリシタン 探訪コース

<家族向き・日帰りに>

島原から入った自然歩道は、フェリーで鬼池港に上陸する。ピワの産地で有名なここ五和町にはキリシタン墓碑を集めた鬼の城公園があり一見の価値があります。

コースは本渡海水浴場から始まり三〇分ほど歩くと、天草農高横の坂道にキリシタン宣教師の最高学府天草コレジオ（天草学院）跡の記念碑が建っています。

一帯は丸尾ヶ丘と呼ばれ、秀吉のキリシタン禁令のため、キリタン大名小西行長と熱烈な信者である天草久種の献策により天正十九年（一五九一）加津佐（長崎）にあったコレジオを移したものの（河浦町との説もあります）です。ここでは我国最初のヨーロッパ式活版印刷機械を輸入し、そこで印刷された「平家物語」「伊曾保物語」は天草本呼ばれ西欧諸国に保管されています。

天草におけるキリシタン文化の華やかな時代を偲びながら歩を進めていきますとやがて趣のある石段に至ります。静寂のなかに歴史を秘めたこの石段を上りま

すと天草の乱の後、民心の安定とキリシタンの改宗のため建てられた明徳寺に着きます。入口には日本人離れした地蔵が建っており俗に異人地蔵と呼ばれています。又石段の裏側には信者のせめてもの抵抗を示す十字が刻まれています。

だから坂を登ると殉教公園に出、キリシタン墓碑や天草の乱の犠牲者を祀る千人塚、国指定の文化財に指定されている天草四郎の陣中旗など、多くのキリシタン関係の資料を展示してあるキリシタン館があります。

公園から石段を下ると、天草の乱の激戦地町山口川に出る。両軍合わせて八千人の戦死者で川は血で染ったといわれます。ここに架かっている祇園橋は県下でも珍しい多脚式の石橋で天保五年（一八三四）に作られたものです。

ここから十萬山へは五百メートルの距離で、この辺一帯は公園化され、山頂からの眺望は市街地はもちろん不知火海又雲仙島原をも一望に見渡せる絶景の地です。

坂道を下るとコースの終点である亀川中学校前まで約二十分ほどです。

（あし）本渡バスセンターから亀川中学前までバス五分（徒歩二十分）同じくセンターから天草国際ホテルまでバス十分。

（コース）延長九キロメートル

本渡海水浴場⇩天草学院跡⇩殉教公園⇩祇園橋⇩十萬山⇩亀川中学校前

## 極め付きの大景観 海と山とカニの味

### 観海アルプス コース

<健脚向き・1泊2日で>



このコースは県下で一、二を争う見晴らしの良いコースで、本渡からバスで尾串（倉岳町）で下車し、大作山林道から始まります。

林道を一時間ほど歩くと新しく作られた自然歩道に入りますが、眺めが素晴らしい疲れを感じさせません。ここから四十五分ほどで念珠岳のふもとに着きます。

更に歩くと一時間三十分ほどで二弁当峠に着き、昔はこの峠を越すのに弁当が

二個必要だったことから名前がついたとか。勿論現在は舗装も完了し、車で楽に越せます。なおここには自然歩道を歩く人のために、八月上旬から新しくバス停ができることになっています。

トンネルを抜けると子供連れでも歩ける坂道が続く、一時間もせず矢岳山頂に着きます。ここ矢岳神社には万病に利くという清水が湧いています。この水は疲れをいやすのに最適だと伝えられています。

落差十五メートルの不動の滝を見ながら三十分で白岳に着き、コースで最高の展望所で三六〇度の眺望は一大パノラマで山頂からの眺めは、眼下の八代海に帆を一杯に張った打瀬船がオモチヤのように見え、不知火海のロマンをただよわせます。足元には姫戸町が一望に八代市も遠くかすんで見えます。まさに観海アルプスの名のとおりです。

時間も遅くなるので意を決して中岳、麓（つわ）岳と歩き約五十分で牟田峠に着きます。姫戸町の牟田に宿をとれば夕食には姫戸名物カニが出ます。その他新鮮な海の幸が有名です。

宿のそばにあるカニの養殖場を訪ねてみると面白いと思います。昭和三十年から試験を重ね、二十五年間かけて完全養殖に成功したもので、最近では全国はもろろん韓国からも技術指導の依頼があるという、ここまでの苦労が偲ばれます。昨日の牟田峠から再び自然歩道に入る